



2025年3月期 決算説明会

2025年5月

証券コード
6623

1. 2025年3月期 決算概要
2. 2026年3月期 通期見通し

2025年3月期 決算概要

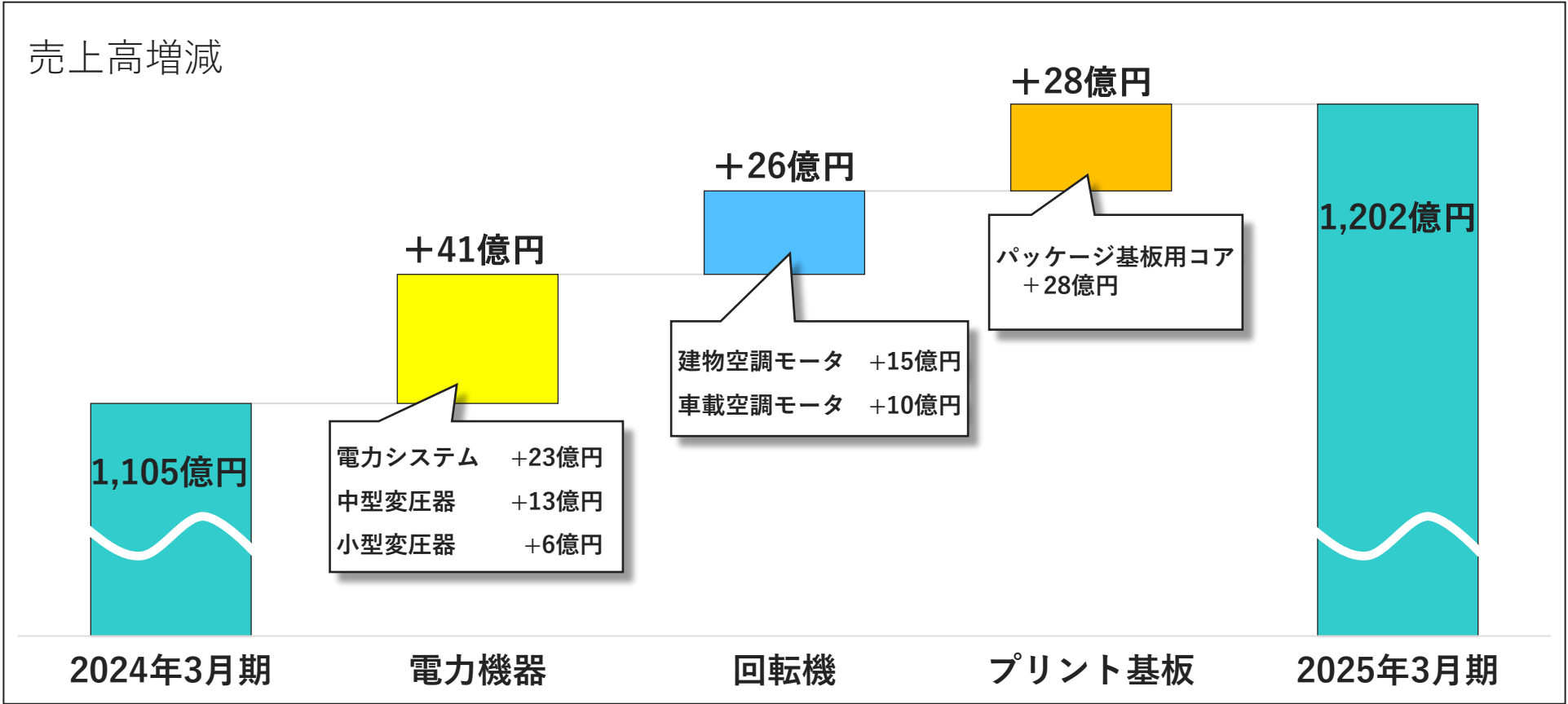
- 経営環境
- 電力機器分野は需要堅調、回転機分野は市場が緩やかな回復、プリント基板分野は生成AI関連の需要が好調。
- 業績
- 前期比、**各事業で増収増益。売上高・各利益ともに過去最高。**特に、電力機器事業とプリント基板事業が好調。

(単位：億円)

	2025.3 当初予想	当初予想比		2025.3 実績	前期比		2024.3 実績
		増減額	増減率		増減額	増減率	
売上高	1,200	+ 2	+ 0.2%	過去最高 1,202	+ 96	+ 8.7%	1,105
営業利益	70	+ 16	+ 23.8%	過去最高 86	+ 16	+ 22.8%	70
経常利益	70	+ 23	+ 33.2%	過去最高 93	+ 10	+ 12.2%	83
親会社株主に帰属 する当期純利益	48	+ 18	+ 39.3%	過去最高 66	+ 7	+ 12.6%	59

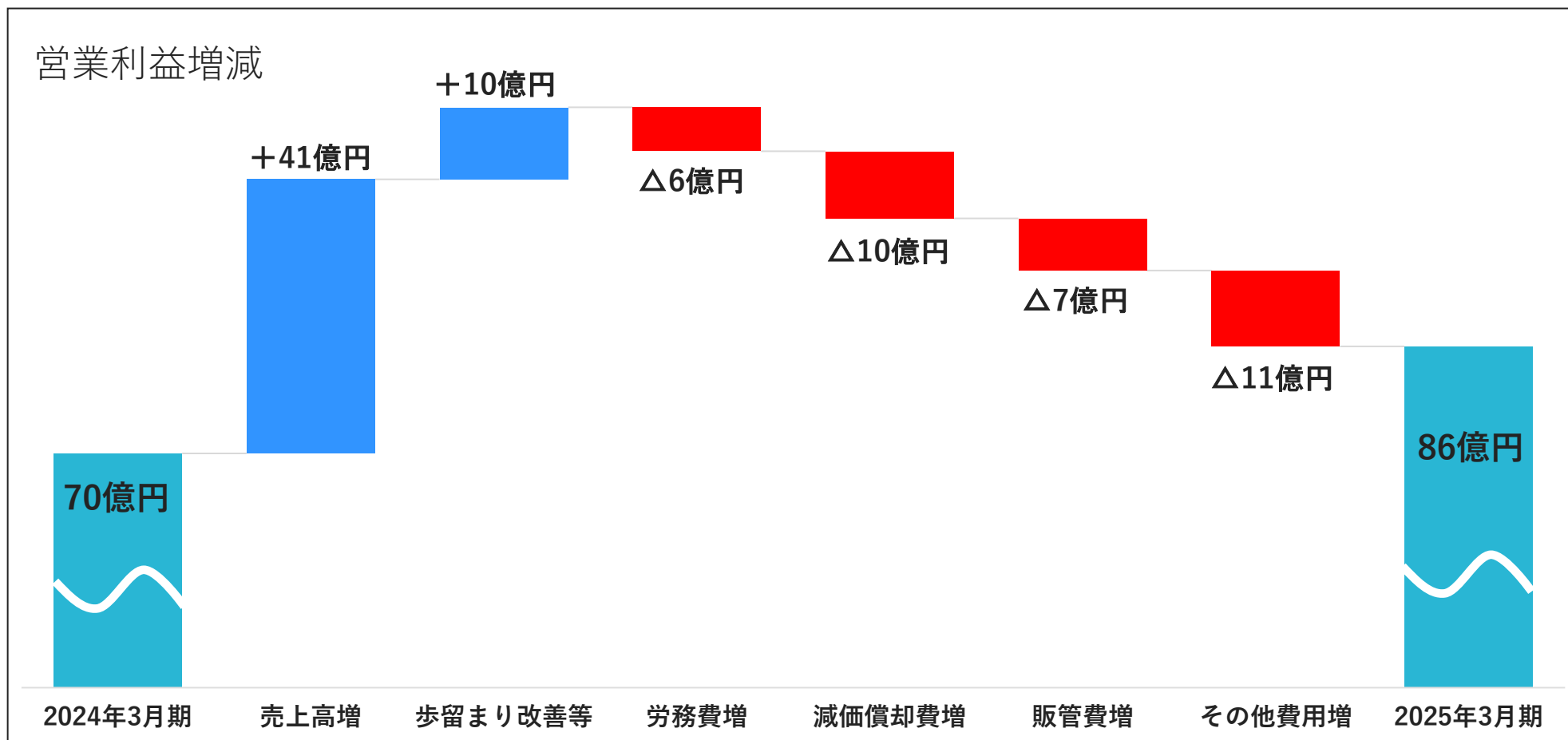
売上高増減要因（前期比）

- 前期比**96億円**の増収。
- 電力機器事業は、海外向けプラント大型案件の完了や小型・中型変圧器の堅調により増収。
回転機事業は、建物空調モータの受注回復などにより増収。
プリント基板事業は、パッケージ基板用コアの受注好調維持により増収。



営業利益増減要因（前期比）

- 前期比**16億円の増益**。
- プリント基板事業で新工場（新発田工場）の稼働開始により減価償却費と労務費が増加したが、各事業の売上高増加および歩留まり改善等により増益。



電力機器事業としては増収増益

売上高	(単位：億円)			
	2024.3 実績	2025.3 実績	前期比	
			増減額	増減率
小型変圧器	60	66	+6	+10.8%
中型変圧器	88	102	+13	+15.7%
大型変圧器	34	32	△2	△6.7%
制御機器	71	70	△0	△1.1%
電力システム	33	57	+23	+70.4%
産業システム	7	9	+1	+18.2%
その他	38	37	△0	△2.4%
計	335	377	+41	+12.4%
セグメント利益	38	44	+5	+15.3%

セグメント売上高比率



主な顧客

国内一般送配電事業者、一般需要家(工場、ビル等)

2025年3月期 製品別売上高の状況

- ・ 小型変圧器は、一般送配電事業者向け柱上変圧器の取替需要があり堅調に推移した。
- ・ 中型変圧器は、自動電圧調整器が前期並みとなったが、一般産業向け変圧器が好調な需要のなか積極的な拡販活動により堅調に推移。
- ・ 電力システムは、ウクライナ向け大型プラント案件の完了などにより増収となった。

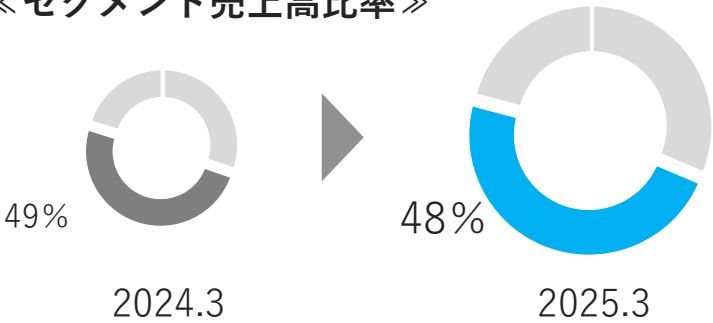
■ 回転機事業全体で増収増益

売上高

(単位：億円)

	2024.3 実績	2025.3 実績	前期比	
			増減額	増減率
建物空調モータ	264	280	+15	+6.0%
車載空調モータ	192	202	+10	+5.5%
モータ応用機器	76	76	+0	+0.5%
その他	14	14	+0	+0.0%
計	547	574	+26	+4.9%
セグメント利益	10	21	+11	+104.0%

《セグメント売上高比率》



《主な顧客》

家電メーカー、コンプレッサメーカー、介護機器メーカー、ポンプメーカー

《2025年3月期 製品別売上高の状況》

- ・建物空調モータは、2023年3月期には及ばないものの、受注が回復したことにより前期を上回る結果となった。
- ・車載空調モータは、当初予想の受注には及ばないものの、前期比増となった。

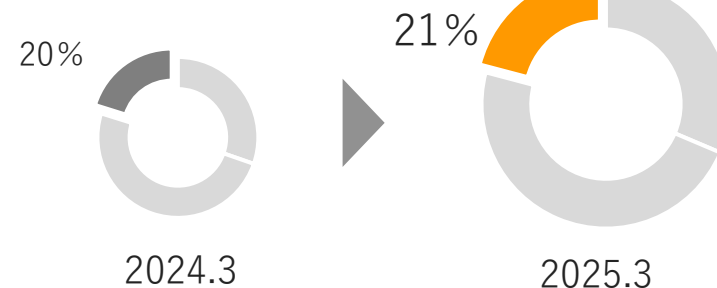
■ プリント基板事業としては増収増益

売上高

(単位：億円)

	2024.3 実績	2025.3 実績	前期比	
			増減額	増減率
パッケージ基板 用コア	185	214	+28	+15.6%
一般基板	37	36	△0	△2.2%
計	223	251	+28	+12.6%
セグメント利益	39	40	+1	+4.4%

《セグメント売上高比率》



《主な顧客》

パッケージ基板メーカー、FA機器メーカー 等

《2025年3月期 製品別売上高の状況》

- ・パッケージ基板用コアは、汎用サーバー向けや通信機器向けが堅調に推移した。
- ・一般基板は、産業機器向け・FA機器向けなどで顧客の在庫調整が続いており、前期比で微減となった。

バランスシート の 状況

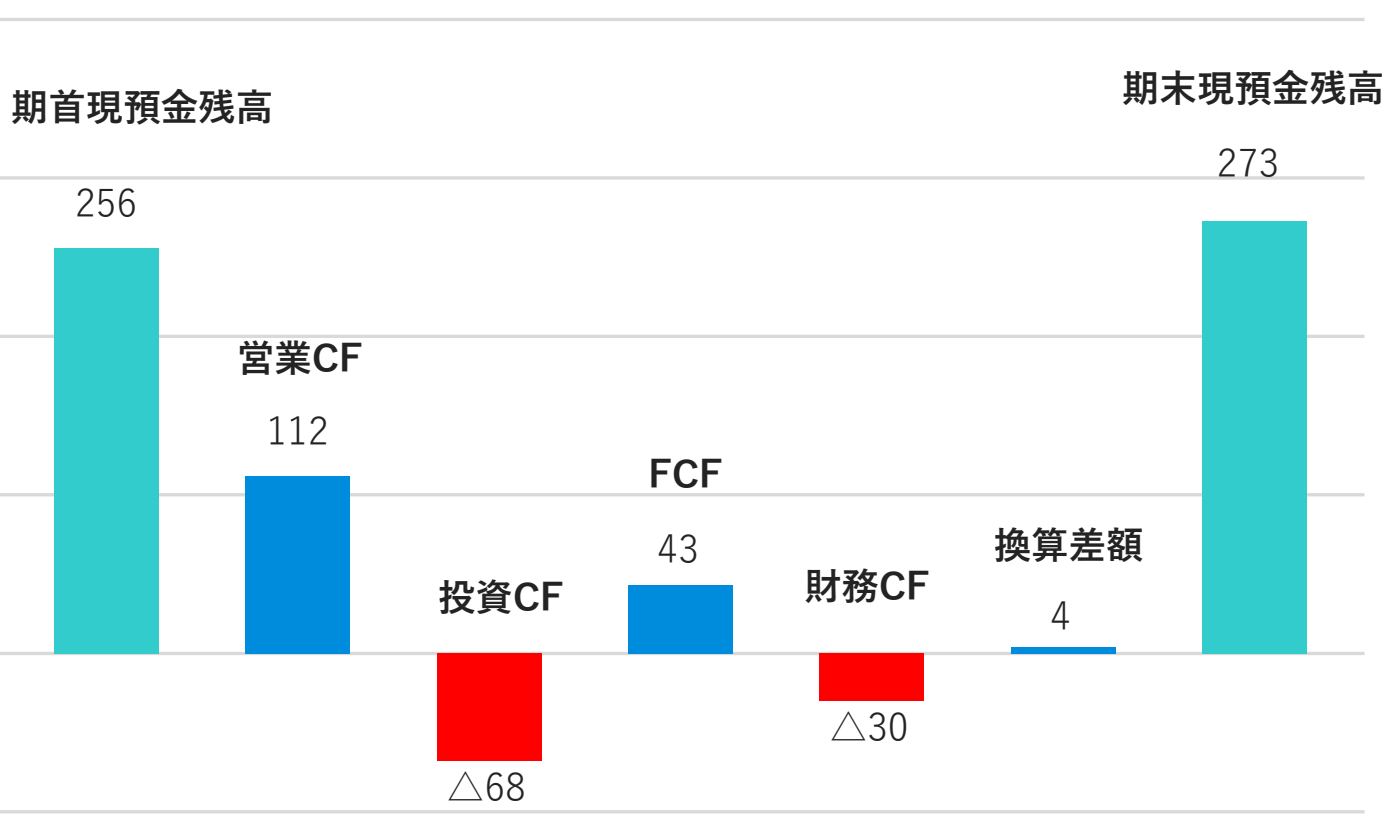
- 固定資産は、成長事業への生産能力増強投資により増加。
- 自己資本比率は、業績好調により前期末から1.5%増加し55.9%。
- ROEは8.8%、ROICは6.3%。

(単位：億円)

	2024.3 実績	2025.3 実績	前期比 増減額
資産合計	1,343	1,418	+75
売上債権	361	387	+25
棚卸資産	192	199	+7
固定資産	476	525	+48
負債合計	598	607	+9
仕入債務	237	244	+6
有利子負債	201	201	0
純資産合計	745	811	+65
自己資本	730	793	+63
自己資本比率	54.4%	55.9%	+1.5%
DEレシオ (有利子負債/自己資本)	28%	25%	△2%

■ プリント基板事業の設備投資などにより投資CFは68億円の支出、短期借入金の返済などにより財務CFは30億円支出したが、営業CFで112億円の資金を得たため、期末の現金及び現金同等物残高は17億円増加の273億円となった。

(単位：億円)



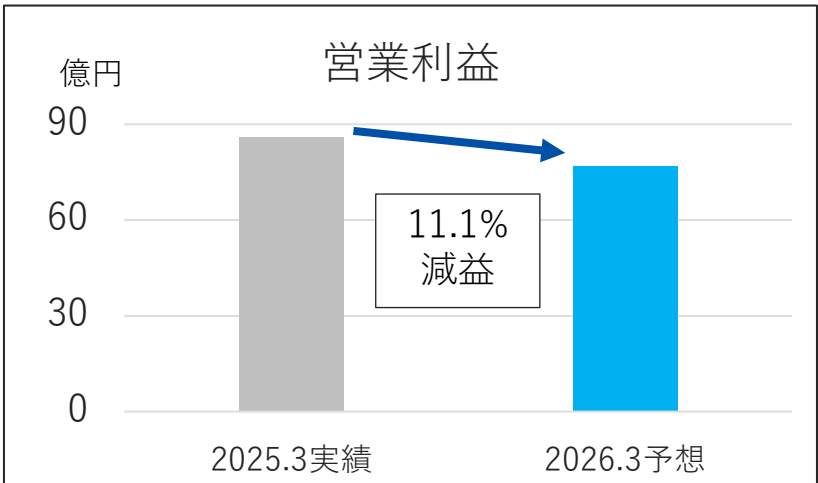
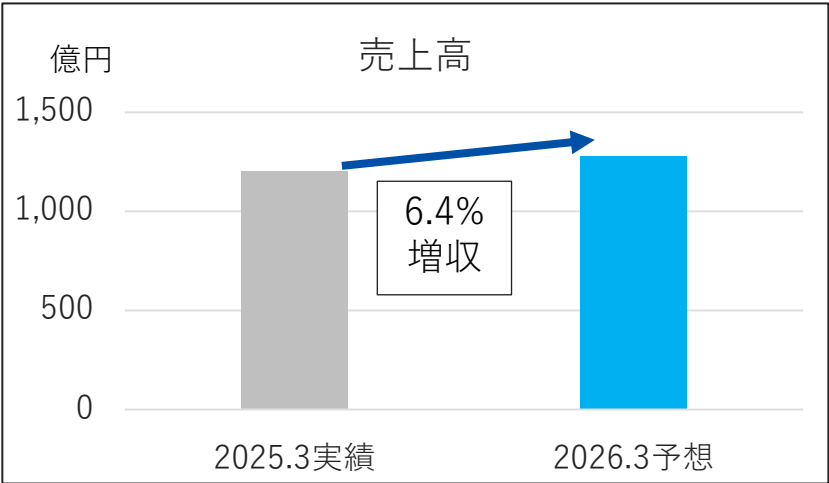
主な内容	
営業CF	
税金等調整前当期純利益	+93億円
減価償却費	+59億円
売上債権の増加	△15億円
法人税等の支払	△23億円
投資CF	
有価証券の売却	+20億円
有形固定資産の取得	△85億円
財務CF	
短期借入金の返済	△19億円
配当金の支払	△15億円

2026年3月期 通期見通し

■ 増収も減益の予想。

(単位：億円)

	2026.3 予想	前期比		2025.3 実績
		増減額	増減率	
売上高	1,280	+ 77	+ 6.4%	1,202
営業利益	77	△9	△11.1%	86
経常利益	76	△17	△18.5%	93
親会社株主に帰属する 当期純利益	53	△13	△20.7%	66



電力機器事業

全 般

事業を取り巻く環境は不透明であるものの、「一般送配電事業者向け」、「一般産業向け」とともに、底堅い需要に下支えされ、堅調に推移する見込み。なお、データセンターなど今後の電力需要増加に伴う設備投資状況には引き続き注視が必要。



一般送配電事業者向け

投資抑制や設備延命化などによる需要の伸び悩みがあるものの、底堅い需要により全体としては堅調に推移する見込み。

一般産業向け

高度経済成長期に設置された機器の取替や、再生可能エネルギー関連設備などの旺盛な需要に加え、「2026トップランナー変圧器」への切り替えに伴う駆け込み需要などにより、堅調に推移する見込み。

回転機事業

全 般

米国関税政策の影響については、現時点では直接的な影響は出ていないものの
間接的な影響は不透明・不確実な状況。



建物空調モータ

空調メーカーの在庫調整はほぼ完了し、徐々に回復傾向。

車載空調モータ

米国関税政策の影響などにより先行き不透明。
日系車メーカーの受注動向によっては下振れリスクあり。

モータ応用機器

ポンプ用モータが好調、介護機器・工作機械用モータが受注伸び悩み。

プリント基板事業

全 般

通信・サーバ向け需要は堅調。車載や産業機器向けは在庫調整が一巡し回復しつつある。



パッケージ基板用コア

汎用サーバや通信機器関連の需要は顧客によってまだら模様も、全般的には堅調。

一般プリント基板

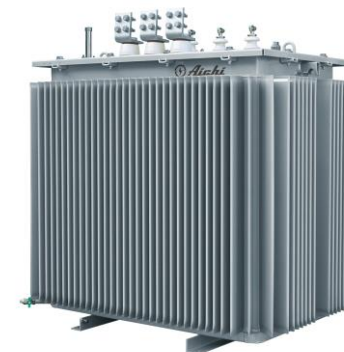
産業機器向けは緩やかな回復が期待されるものの、中国経済の停滞による下振れを懸念。

変圧器の生産能力増強

ものづくり力の強化
生産体制の最適化

一般産業用変圧器の積極的な拡販活動による販売増を図るため、
当社グループの生産能力の増強を図る。

背 景	高圧受電設備を保有する一般需要家向けで、第三次判断基準に対応したトップランナー変圧器（2026トップランナー変圧器）の需要が高まる見込み。
対 象	トップランナー変圧器（10～500kVA）
内 容	当社および子会社（岐阜愛知電機(株)）にて、工場増築・生産設備導入を実施。 生産能力を従来比1.8倍（年間生産台数17,000台）に増強。
投資額	約25億円
時 期	2024年度下期から2026年度



植物油入り変圧器の開発

新製品・新事業の発掘・育成
－ 再生可能エネルギー関連

脱炭素の観点から、変圧器の絶縁油として、一般的に使用される鉱物油に代えて植物油を使った変圧器の導入が進んでいる。

当社では、2016年にパームヤシ油を用いた産業用変圧器を開発し、以降、一般送配電事業者向けの大容量の負荷時タップ切換変圧器を開発するなど、製品ラインナップを拡充してきた。

現在、菜種油および大豆油入り変圧器の開発を進めている。

パームヤシ油入変圧器



パームヤシ油入
トップランナー変圧器
(500kVA)



パームヤシ油入変圧器
(4,500kVA)



パームヤシ油入変圧器
(10,000kVA)

菜種油入変圧器
大豆油入変圧器

空調モータ生産拠点の最適化検討

ものづくり力の強化
生産体制の最適化

国内外での建物空調および車載空調の需要に応えるため、現在、国内2拠点および中国3拠点で生産している。

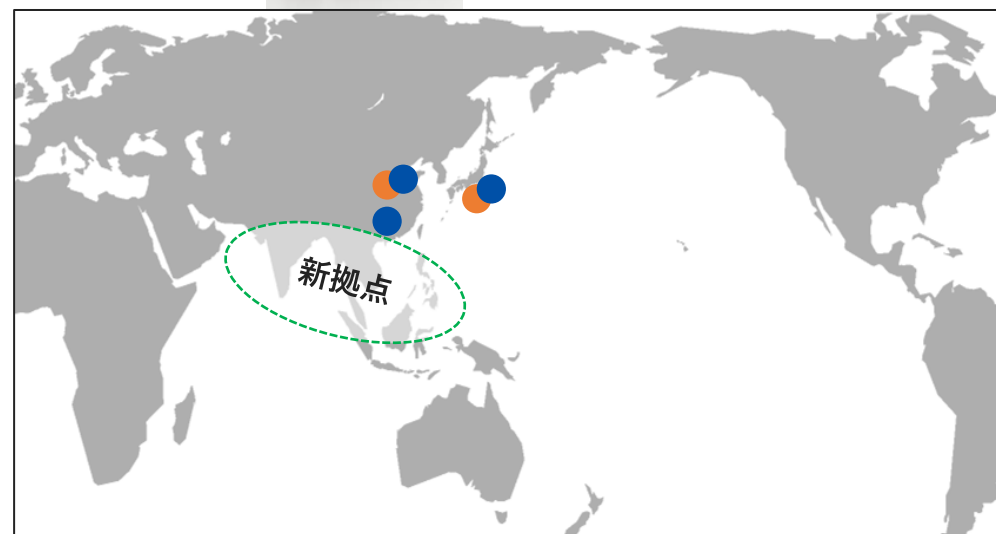
今後、国内外での競争力強化、米中貿易摩擦の対応として、東南アジアなどへの進出を検討している。

生産拠点		建物 空調	車載 空調
国内	愛知県春日井市	●	●
	岐阜県郡上市	●	●
海外	蘇州愛知高斯電機(中国)		●
	蘇州愛知科技(中国)	●	
	広州愛知電機(中国)	●	
	海外新拠点（検討中）	○	○

建物



車載



パッケージ基板用コアの生産能力拡大

ものづくり力の強化
生産体制の最適化

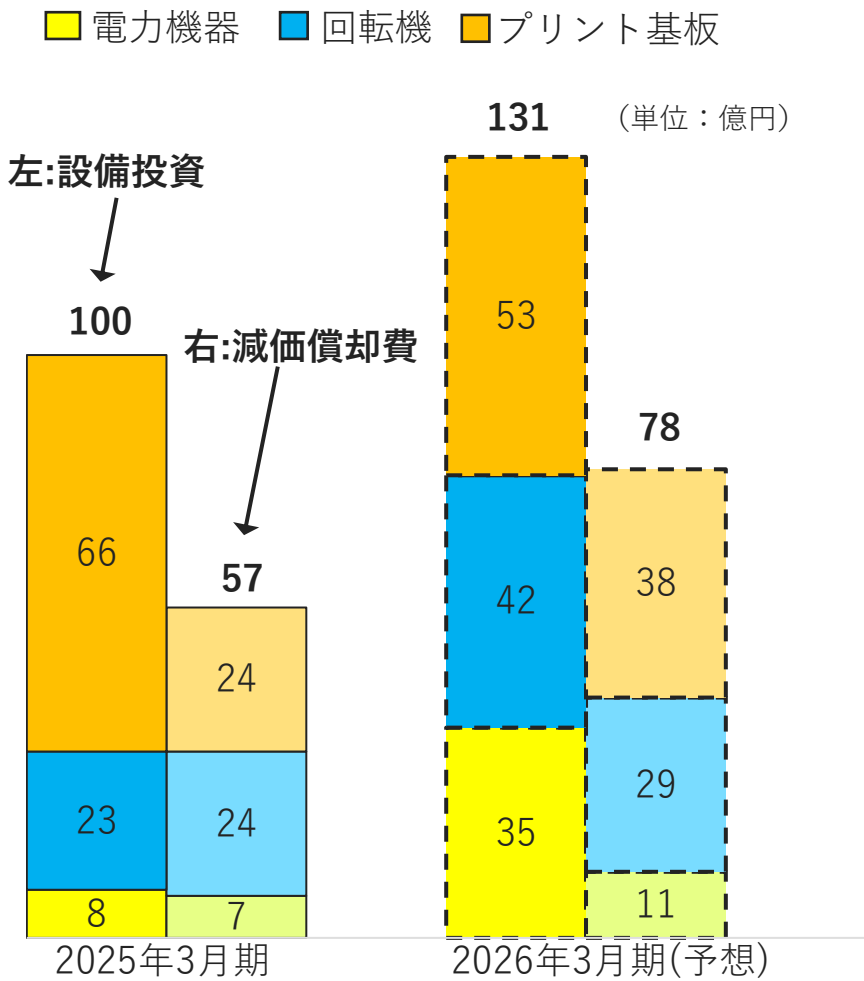
＜2019年度以降の設備投資の状況＞

旺盛な需要に応えるため、引き続き生産能力を拡大している。

第4期増強計画については、2025年3月末時点の累計投資額44億円、進捗率49%と計画に沿って進行中。設備は2025年7月頃から順次稼働予定。

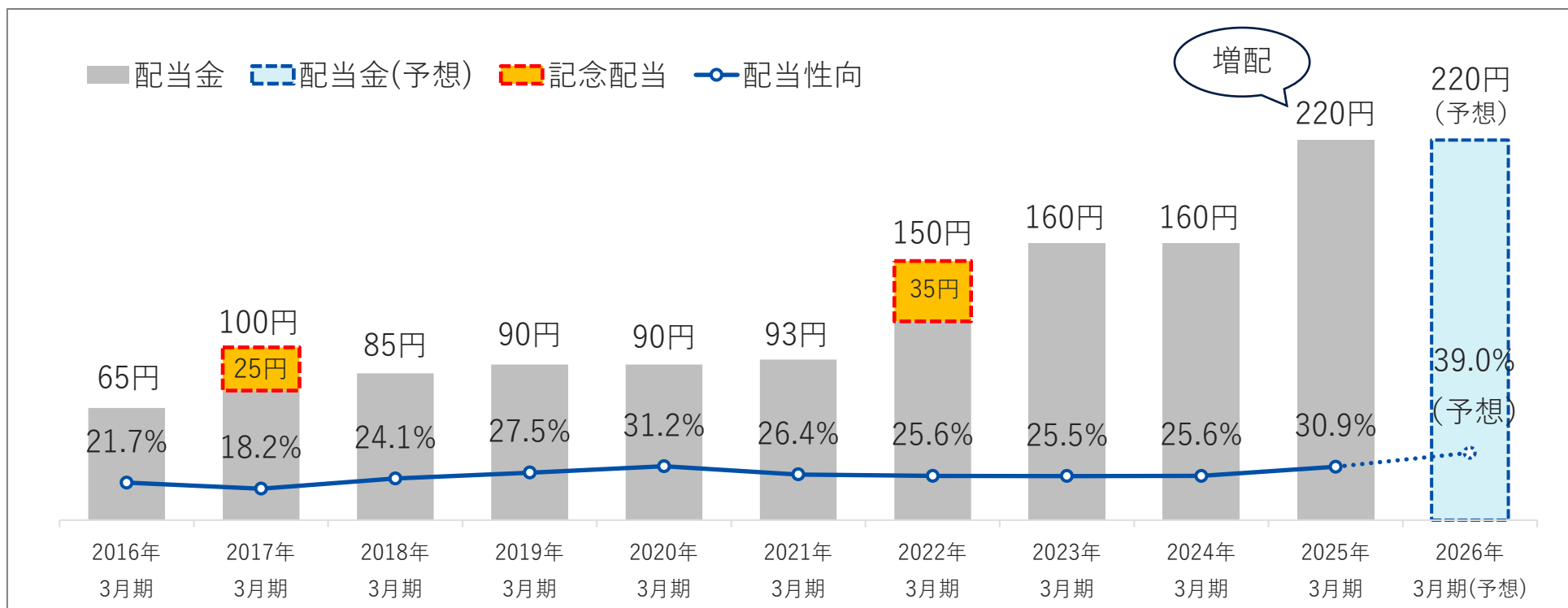
期	設置時期	内容	投資額	生産能力	
				直前期 投資比	第1期 投資前比
第1期 完了	2019年度上期から 2021年度	春日井工場に生産設備を増設	34億円	約1.3倍	
第2期 完了	2019年度下期から 2022年度上期	中津川工場に穴あけ機を増設。春日井に メッキ工場を新設し、生産設備を増設	40億円 (累計74億円)	約1.2倍	約1.6倍
第3期 完了	2022年度から 2024年4月	新工場（新発田工場）に生産設備を設置	76億円 (累計150億円)	約1.3倍	約2.0倍
第4期 進行中	2023年度下期から 2026年度上期	新発田工場に生産設備を増設 (2025年7月頃から順次稼働予定)	90億円見込 (累計240億円)	約1.2倍	約2.3倍

設備投資額および減価償却費



設備投資の内容	
【2025年3月期】	
電力機器	生産設備の維持更新や能力増強など8億円実施。
回転機	車載空調モータの生産ライン増強など23億円実施。
プリント基板	パッケージ基板用コアの生産設備増強など66億円実施。
【2026年3月期（予想）】	
電力機器	2026トップランナー変圧器増産に向けた生産設備の増強等により、投資額は27億円増の35億円を予想。
回転機	国内外における車載空調モータ生産設備増強等により、投資額は19億円増の42億円を予想。
プリント基板	パッケージ基板用コアの第4期生産能力増強などにより、投資額は13億円減の53億円を予想。

- 株主への安定的な利益還元は経営の最重要政策と位置付け、**連結配当性向の目標を30%以上**とする。
- **2025年3月期**の1株当たり年間配当は220円。当初予想の160円から60円増配。
連結配当性向は**30.9%**。DOE(株主資本配当率)は2.71%
- **2026年3月期**の1株当たり年間配当予想は**220円（中間110円、期末110円）**。
連結配当性向は39.0%を見込む。



(注) 2016年10月に普通株式5株を1株に併合しております。
これにより2016年9月末までの1株当たり配当金額については、株式併合後のものと整合をとるため、実績値の5倍で表記しております。

愛知電機グループは、1942年の創業以来、
技術へのこだわりと、ものづくりへの情熱を伝承し、
電力インフラや快適な生活をサポートする製品を
提供してきました。

これからも、ものづくりを通じて、
豊かな暮らしと持続可能な社会づくりに貢献する
企業集団を目指してまいります。



お 問 合 せ 先
管 理 本 部
経 営 企 画 部
広 報 ・ IR グ ル ー プ

TEL 0568-35-1105

<https://www.aichidenki.jp/contact.html>

<注意事項>

本資料の将来計画の数値につきましては、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる可能性があります。